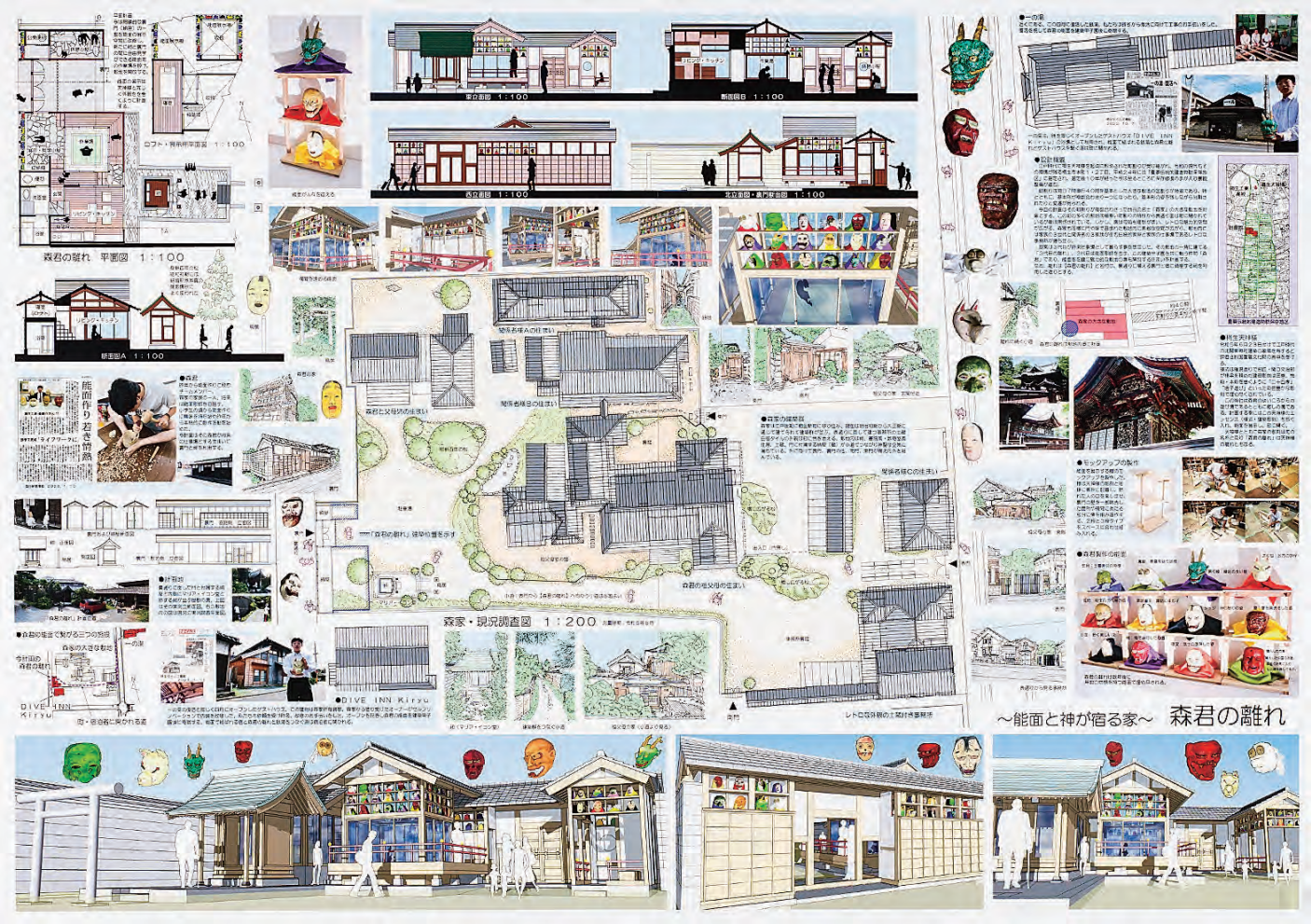
準優勝

～能面と神が宿る家～ 森君の離れ

群馬県 | 群馬県立桐生工業高等学校　選手…3年生5名、2年生1名



日本には離れという文化があり、敷地に複数の建築が建てられることがありました。家族が寝起きする建築を「母屋（おもや）」といい、母屋から離れた位置に建つ建築を「離れ」と言いました。一般的に離れは母屋よりも小さく、住宅としての設備も最低限に抑えられていることが多く、あくまでも「母屋」に付属する施設でした。家族が増えて主屋の部屋が足りなくなってしまった時、客人にくつろいで泊まってもらいたい時、アトリエなど趣味のスペースが欲しい時などに「離れ」は建てられました。

住まいだけでなく旅館にも自然に囲まれ、誰にも邪魔されることなく本を読む、温泉につかる、あるいは何もせず木々の木漏れ日の変化を楽しむなど思いのままに心を解放させるひと時を過ごす「離れ」があります。また、独立した茶室も離れの一つと言えます。まさに今回の提案は「母屋」と「離れ」です。

このようにさまざまな使い方が可能な「離れ」は独立して建てられることがほとんどです。

今回の提案の「森君の離れ」も同様に母屋からは独立しています。敷地は表通りと裏通りを持つ間口7間・奥行き40間の町割りをさらに大きくした敷地で、表通りは昔の町屋のように事務所がありまちに開いており、裏通りは裏門と納屋の長屋門のような落ち着いた景観をつくっていますがまちに対しては閉ざされています。しかし、内部は分棟の伝統的な住まいが点在し、閑静な落ち着いた場をつくっています。

今回の計画の優れているところの一つは、裏門と納屋の長屋門のような景観は維持しつつ、増築し将来の森君の住まいと能面の仕事場・展示室を独立した裏通りに開いた「離れ」を設けていることです。もう一つは、裏通りに対しては能面のショウケースでまちにアピールし、展示室へはあえて裏門をくぐって敷地内からアプローチしていることです。そうすることで提案にもあるまちの人たちとこの地を訪れた人たちの裏通りと表通りをつなぐルートができ、敷地全体の景観を楽しむまちに開くきっかけをつくったことです。

優勝は逃しましたが、さまざまなシーンのスケッチを交えたわかりやすく美しいプレゼンテーションで好感が持てる案でした。ぜひ将来実現してください。準優勝おめでとうございます。（堀）